

平成27年度 第3回 周南市都市再生推進協議会

議 事 要 旨

日 時 平成28年3月17日（木）9時57分～11時58分

場 所 周南市徳山保健センター 健診ホール

| | | |
|-----------------------------|-----------|-------|
| 出席者：山口大学大学院 | 教授 | 鷗 心治 |
| 徳山大学 | 教授 | 石川 英樹 |
| 徳山工業高等専門学校 | 准教授 | 目山 直樹 |
| 社会福祉法人周南市社会福祉協議会 | 事務局長 | 有馬 俊雅 |
| 公益財団法人周南市文化振興財団 | 事務局長 | 有田 順一 |
| 一般社団法人山口県宅建協会周南支部 | 支部長 | 池田 周太 |
| 新南陽商工会議所 | 専務理事 | 谷口 博文 |
| 周南市中心市街地活性化協議会 | TM会議委員長 | 黒神 直大 |
| 西日本旅客鉄道株式会社徳山地域鉄道部 | (代理) | 近藤慎一 |
| 防長交通株式会社 | 取締役営業部長 | 牧 洋史 |
| 周南市コミュニティ推進連絡協議会 | 副会長 | 山根 昭昶 |
| 一般公募 | | 高橋 俊彦 |
| 国土交通省中国地方整備局建政部 都市・住宅整備課 | 課長補佐 | 石川 啓貴 |
| 山口県土木建築部都市計画課 | まちづくり推進班長 | 野嶋 秀範 |
| 事務局：都市整備部長 | 岡村 洋道 | |
| 都市整備部次長兼建築指導課長 | 國澤 智己 | |
| 都市計画課長 | 有馬 善己 | |
| 都市計画課長補佐 | 高瀬 文三郎 | |
| 都市計画課計画策定担当主査 | 中村 充孝 | |
| 都市計画課主査 | 福田 葉子 | |

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
 - (1) 周南市の課題分析と基本方針（案）について
 - (2) 今後のスケジュールについて
4. その他
5. 閉会

以上

~~~~~

午前9時57分 開会

【事務局】 定刻となりましたので、ただ今より、平成27年度第3回周南市都市再生推進協議会を開会いたします。

委員の皆様、ご多忙のなか、ご参集いただきまして、ありがとうございます。

はじめに、委員定数につきまして、ご報告をさせていただきます。委員総数15名中12名の委員の方に出席をいただいておりますので、周南市都市再生推進協議会設置要綱第6条の規定により、本会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。

なお、保見委員におかれましては、本日代理として、副駅長の近藤慎一様にご出席をいただいております。

小野委員、藤井委員、小林委員は欠席でございます。

それでは、資料の確認をさせていただきます。配付資料につきましては、議事次第に記載しているとおりでございます。不足している資料がございましたら、事務局にお伝えください。

それでは、開会にあたり、都市整備部長の岡村がご挨拶を申し上げます。

【部長】 (あいさつ)

【事務局】 それでは、これからの進行は、鳩会長にお願いいたします。

【会長】 それでは、議事に入ります。まず、周南市の課題分析と基本方針（案）について、事務局から説明をしてください。

【事務局】 (資料2により補足しながら、資料1の1ページ目を説明)

【会長】 周南市の現状とそこから導き出された主な問題点がA、B、Cの3点、それから複合する問題点が出てきているという状況について説明がありました。これからその課題を踏まえてどういうふうに組み立てていくかというのが2ページ目で、3ページ目が総合的な基本理念という流れになっています。とりあえず説明していただいた現況の整理、過去から現在に至る変遷も含めて、課題が3つ出てきているというところまでの説明につきまして、質問を受けたいと思います。

それでは、ただいま説明のあった内容につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。

【委員】 最近10年間程度の周南市の変遷と問題点をピックアップされていますが、周南

市の弱みだけではなくて、今後我々が考えていく中でプラス材料になるような強みも変化してきているんじゃないかと思います。周南市のこの10年間程度で強みとしてあらわれてきた部分、今後考えていく中でプラス材料として考えられる部分があれば、お聞きしたいと思います。

【会長】 ネガティブな結果ばかりがレポートされていますが、プラスに評価できるようなことがあればお願いします。

【事務局】 人口減少の中の課題を見つけるという検証で、ご指摘のあった強みを見つけるというのはなかなか難しい視点だと思っています。

ちょうど総合戦略を立てておりますけど、周南市の場合、強みであるコンビナートとの連携を図ったまちづくり、水素とか電力を活用したまちづくりを進めていくことが、今後の戦略の一つになると思います。

これを、立地適正化計画にどういうふうな形で絡ませていくかというのは今後の課題になると思います。

【会長】 こういう点はプラスに評価できるんじゃないか、ちょっと調べてみてはどうかということがあったらご指摘いただければ助かります。

【委員】 私が注目しているのは、やっぱり産業面です。徳山下松港が国際拠点港湾に指定されて、港湾整備をやろうとしています。それが市民一人一人の生活にどう影響があるかというのは、まだいろいろ分析が必要ですが、市全体としての戦略の一つというふうに位置づけられていますので、こういったことも踏まえて考えていかなければいけないと思います。

【会長】 産業、港湾というキーワードでプラスに評価されるようなデータ、資料が近いうちに準備できるようであれば、ぜひご提示いただければと思います。

【委員】 「現況の整理と今後の方針」のステップ3、資料2の26ページの箇所についてですが、「モータリゼーションの進展」というのは1970年代の感覚と申しました。今は、過度に依存した車社会と言うべきです。周南市では人口が減っておりますが、自動車保有率は増え続けております。だから、都市機能を誘導したときに、何を前提にしてこういう形に持っていくかというところのヒントになると思います。

それから、山陽自動車道の徳山東インター、徳山西インターの間から国道2号で渋滞している区間が横に並んでいます。旧国道2号（県道下松新南陽線）のところでも渋滞になっていますが、これにずっと線を引きますと、この地域の断面交通量

はパンクしていることがよくわかります。要は、自動車交通に対応した道路網をまだつくらなければいけない地域ということが、この資料だけでも浮かび上がります。

だから、公共交通ネットワークの維持・活用という思想は別に悪くないんですけども、自動車に依存した地域として、立地適正化計画に向けたいろんなことを考えていく視点が要ると思います。今は過度に依存した車社会ということで、地方都市では、公共交通が脆弱で人口が減っているのに自動車保有率は増え、公共交通サービスは、低下はしていないけれども利用者が減っているという側面もあるという認識で、現状としてはいいと思います。

加えて、この26ページの図に補足してほしいのは、大型車がどれだけ走っているのかということです。大型車混入率の高い地域なので、沿岸部から国道に向けて、沿岸部からインターチェンジに向けて、大型車、トラックがあるから渋滞する原因にもなっています。それから、ここが発地・着地でない交通が3割ぐらい紛れ込んでいる地域なので、そういうことも意識しながら、どうするべきかをイメージできた方がいいと思います。

配置した都市機能に対して、駐車設備は要るのか、公共交通でサービスするのかという問題が出てきたときに、この地域の移動主体は何かを見せておいた方がいいと思いました。

**【事務局】** 国の社会資本重点整備計画の中で、立地適正化計画に絡んで都市をどうつくるかという話がございます。

渋滞をしたら、確かに防長交通のバスが運行するのに影響があります。そういう車社会の中で、地方において公共交通のみというのは確かにあり得ないと思います。自家用車も併用しつつ、交通全体のネットワークを検討していくことが重要であると思っております。

**【委員】** 市が作成したこの資料はすごく良くできていて、感心しました。コンサルタントとかも入っているかもしれないけども、すごくわかりやすい資料なので、これをたたき台にこれからどういったものをつくっていくかというのが大切だと思います。これから一生懸命考えて、いい意見を出そうと思います。

**【委員】** この資料は、現在の周南市を断面で切ったことに関する緻密な資料だと思います。このまちというのは、このまちのためだけでない、いろんな負荷がありまして、それが全てまちの生活も阻害しているということに目を背けているところがあると思

います。

もう一つ目を向けていただきたいのは、このまちに私も住んでいる人間にとって、このエリアの中だけの現象というのは生活に直結していないということです。実際に、周南市の中で完結している方は、ほぼいないんではないかと思えますし、我々交通ネットワークも周南市の中だけでは完結していません。結局のところ、隣接市、そして隣接市だけでなく通過交通も含めた対応をしているという現状があります。

そういうことで、実際のところ、本来生活している方々の交通はどうなっていて、どれだけの交通量があるのかというのを切り分けていただく方がいいのではないかと思います。現実には通過交通、工場への流入もあるので、それを無視するわけにはいきませんが、それは本来、この計画の中に盛り込む負荷ではないはずで、その負荷は、実はバイパスを使って軽減すべきものですが、それをしないから当然、交通量が増えて道路に走っているものは遅れますし、環境負荷は増えます。本来のまちの姿、生活の姿という観点を入れておかないと見誤るのではないかと思います。

また、車、バス、鉄道など現状の交通機関は、実は今のままでは不便なものというのはいっぱいあるわけで、どう利用したいかでその交通手段を変えていけばいいと思います。

この会議だけでは恐らく完結しない話題ではありますが、これだけの客観分析と、住んでいらっしゃる方の実感、これからこうするべきという姿とが本当に一致するのかなという懸念があります。

【会長】少し難しい指摘ではありますが、いかがでしょうか。

【事務局】周南市の場合は、周南市だけの都市機能ではなく、近隣の行政機関、中央病院等の医療機関という役割があります。生活者や広域という視点での都市構造、都市の役割というものをもう一度検証したいと思います。

【会長】広域調整といいますか、隣接市町との関係も踏まえて、周南市の立地適正化計画をどう考えるかということについて、県で何かございますか。

【オブザーバー】まず、立地適正化計画については、下松市、光市は周南都市計画区域ですから一緒に取り組むことが望ましいということで、県としては隣接市の下松市に働きかけを行っているところです。光市については、28年度からつくられるということで、歩調を合わせながら、ある程度周南市を参考にしながらできると考えています。

あと交通については、山口県は他県と比べてもガソリン消費量も全国1位ということもありまして、車に特化した部分が非常に大きいです。「道を広げてください。」というご要望を皆さんから結構いただきますが、なかなか対応しきれないところもございまして、周南市についても今後の検討課題と感じています。

**【会長】** 上位計画としては、山口県の周南都市計画区域マスタープラン、周南東都市計画区域マスタープラン、それともう一つ広域方針というのがあります。そういったものの整合性、近接市町との整合性を検討しながら、この立地適正化計画を考えていかないといけないと思っております。

**【委員】** Another Step-b「地域経済の低迷」というところで、企業のリストラのことにちょっと触れています。元々このまちは素材産業のまちですが、もっと幅広い産業構造のまちにするタイミングもあったと思いますし、そういう余地があるのではないかと考えます。

それから、企業が行政とタイアップして必要な道路の整備等をしてきましたが、そこで働く人のためにどれだけ道路網の整備が寄与してきたのかという点では少し疑問があると思います。例えば旧徳山市で考えると、国道2号、旧国道2号、それからもう1本、国道2号の北側を通る道路網を整備していたら、2市2町の合併の効果、住民、地域の発展のためにも良かったと思います。企業に働いている人たちはほとんど車で通勤をしていますが、広い駐車場がないと働きに来ることができません。車が使えなくなったときにそれにかわる交通網があるかという点、これも十分でない。もう少し機能を中心にしたまちづくりというのが原点にあれば良かったと思います。例えば、動物園の前から須々万の方に抜ける道路は、もう少し早い段階でやっておけば、もっと違った側面があったと思います。交通網に関しては、まだいろいろまちづくりのために工夫の余地が十分あると考えています。

産業面で言えば、コンビナートのルネサンス計画というのを経済産業省が立てていたことがありますが、結局このまちがその計画に乗り遅れた結果ではないかと思えます。

**【事務局】** 企業とのかかわりの大きさは認識しています。生活と産業をどういう絡ませて都市構造をつくるかというのが重要であると思えます。

交通ネットワークを考えてこの立地適正化計画の中で都市機能を考えていきますが、どういうネットワークの中で都市機能を配置したらよいかという視点も持って

都市機能を考えていきたいと思っています。

【会長】引き続き、事務局の方に2ページ目から3ページ目、課題、今後の方針、基本理念の部分ですが、ここを通して説明してください。お願いいたします。

【事務局】（資料1の2ページ、3ページ目の部分を説明）

【会長】先ほどの課題を踏まえて、2ページ目は、現況の課題と今後の方針が8項目に整理されました。3ページ目は、それを受けまして、基本理念、基本方針、まちづくりの循環のイメージが提案されています。2ページ目、3ページ目につきましてご意見、ご質問がございましたらお願いします。

【委員】都市の住みやすさ、所得などの分析があるのでしょうか。今後の都市づくりでは、若者定住を考えると、単に魅力だけでなく、一生暮らしていけるということも必要だと思います。ここは工業都市ですけれども、この工業都市の生産高ぐらいで、どのぐらいの人口が養えるのかというような研究みたいなものはあるのでしょうか。

【会長】非常に貴重な指摘だと思うんですけども、事務局、いかがですか。

【事務局】いろいろな指標があると思いますけど、本来の所得とは違いますが、市内の生産を人口で割った1人当たり市民所得というものがあります。周南3市は確か県内上位3市を占めているんですけども、そういう意味では、経済的にはとてもよい状況にあると思っています。実際の所得は難しいんですけども、そういう指標というのはあると思いますので、今後ご提示したいと考えております。

【オブザーバー】まちづくりの基本方針でもう少し周南市の考えを明確にされておいた方がいいと思う点が2点あります。

まず、方針1に「生活利便施設や都市の魅力を高める施設の集約」という文言が入っていると思うんですけども、これは、現状のデータ分析、将来の人口動態と今の施設の配置の分析において、その施設の配置が分散形状にあるので、現状からもう少し施設を集約したいということなのかどうかというところは、しっかりご説明いただいた方がいいと思います。

もう一点は、「必要な生活サービスの充実」というのが方針2にあります。公共施設の今後の更新コスト、市の財政状況が厳しいというデータもある中で、まだまだ施設を充実させていきますという方針に見えなくもないので、その辺の整合というのはどう考えているのかというところは、しっかりご説明していただいた方がいいと思いました。

【会長】 1点目は、方針1の生活利便施設等の集約で、現状の分析を踏まえたことを少し反映させた方がいいんじゃないかということでした。

2点目は、公共施設等を充実させると書いているけれども、公共施設の更新コストとの整合性はどうなっているのか、そういうところのコメントをしておいた方がいいということでした。

【事務局】 基本的な考えとしては、どういう都市機能が集約されていて、どういう機能が足りないのかを今後検証していく中で、足りない特定の機能は集約させる、現状あるものについては維持していくという意味合いでの都市機能の集約と考えています。

2点目の生活サービスの充実は、新規に導入していく都市機能もありますけど、現状維持のものもあります。地図上にプロットしたデータを基に十分検証して、その区分を明確にしてお示ししていきたいと思います。

【オブザーバー】 あと、課題の整理をされる中で、国として立地適正化計画制度をつくった背景としては、資料1のステップ1にもありますとおり、これまでの人口動態において市街地というのが全国的にどこも拡大してきて、今後人口減少が今までの傾向より顕著に減少していくということがあります。こうした状況の中で、持続可能な都市をいかに形成していくかということがポイントなので、ぜひその課題の取りまとめの中には、将来さらにどういった危機が想定されるのかという観点もしっかり書いていただいた方が、今後、住民の皆さんにご説明されるとき、より理解が進むと思いました。

【会長】 今のご指摘を十分に踏まえて作業を進めていただきたいと思います。

【委員】 この基本理念と基本方針のところは非常によくわかりますけど、この資料1、2、3を通して気になっているのは、私も実際に周南市の中でいろいろ動いていまして、買い物等で下松市、防府市に行くこともあるんですけど、周辺都市、特に下松市、防府市との関連部分について、基本理念、基本方針に少し入れ込んでおく必要があるのではないかと思います。この基本理念のところに「どこに住んでいても」と書いてありますけれども、やはり実際に周南市に住んでいる我々の動きというのは、下松市とか防府市に関連する部分もあると思います。

【会長】 私も立地適正化計画に幾つか携わっていますが、これだけ隣接都市、広域の視点が出たのは初めてでありまして、私もこれは非常に重要な観点だろうと思っています。周南市であれば、当然下松市、防府市との関係がある程度整理された上で、

周南の今後の都市づくりの方針というのがあぶり出される必要があると思います。

先ほど県にもお尋ねしたところですが、再度何かコメントはございますか。今後絶対に県の役割はこういったあたりで要求される場所だと思うんですけども、何かコメントがあったらお願いします。

【オブザーバー】この立地適正化計画は、市町がつくることということになっておりまして、県は広域的な調整という役割を持っているのと思っています。つくる、つからないを含めて主体になるのは市町なので、できるだけ一緒にやってくださいというようなご要望を上げていくしかないと思っています。要素的なものを隣の都市計画マスタープランから抜き出すということは可能だと思いますが、いつという部分になると最終的にはやっぱり市町の判断になりますので、県としては、隣接するところについては一緒にやるように助言していきたいと考えています。

【会長】資料をつくる上で、県の区域マスタープラン、広域方針において防府市、下松市の位置づけがどうなっているかということを確認していただいて、周南市の位置づけを再確認するということですね。

それと、立地適正化は周南市が先行していますので、後発の市町が立地適正化計画をつくる際には、当然周南市の計画をある程度踏まえた上で計画をつくることになると思います。そのときに、県内の調整、総合的な調整が入っていくと思います。ただ、法律ができて間もないので、その辺の調整、計画の整合性みたいなところがどこまで可能かというのは、まだ全国的にも余り例がないので非常に難しいと認識していますけれども、今後そういう調整は十分やらないといけないことだろうと私も認識していますので、ぜひ県もよろしくお願ひしたいと思っています。

【委員】私たちの業界誌の中にありましたが、立地適正化計画は全国で200自治体が手を挙げているそうですね。今までは人口増加を前提にしていたけれども、これからは人口減少になるので、緩やかに調整しながら中に集めていく。そうしないと、自治体が破綻した場合、インフラ整備ができないなど何もできなくなってしまう。それだけについて言えば、これは都市計画法における規制で、新しい都市計画法をつくっていくというような感じに私たちは受けとめています。

空き家問題もたくさん出てきています。今は、主に平成生まれの方が低金利を背景に住宅取得しています。それによって、住宅地が郊外に拡散しています。でも、団地は栄枯盛衰があります。30代で住宅を取得した50年前の団地に都会に出て

しまった子供達が帰ってこない。集約するのはいいけれども、いま一度、現在の規制について見直さないといけないと思います。新しくつくる住宅地は、全員が外から来るので住みやすさにはあります。ところが、古いまちなかに入っていくと、人間関係が難しいことがあります。そうすると、皆さん新興住宅地に家を構えてしまうので、誘導、集約化とまるで逆のことが現在起きています。

私は、ここに周南コンビナートの産業界のメンバーがいけないのも不思議だと思います。今、一番私が心を痛めているのは、企業がどんどん撤退して社宅が空き家になって、潰してそれが住宅地になっているような現状です。企業が立地を選ぶために何が要るのか。港、新幹線、高速道路の他に何が足りないのかというのをいま一度検証する良い機会だと思います。

今、田んぼが売られて、住宅地になっています。どうしてかという、専門農家では生計が成り立たないので、農業の後継者がいません。固定資産税の軽減など農業を継承しやすくすることも考えないといけないと思います。

この周南地域というのは、日本の地方都市の最たるものだと思います。モータリゼーションで車が多いというのもそれだけ不便で、山口県内に小都市が分散しているからです。それを踏まえて、ものを考えればいいと思います。だから、道路、インフラは絶対必要です。そして、どうしていったら良いか企業と一緒に考えましょうという姿勢にすれば、周南市というのは、すごく企業が進出するのに良いところになって、たくさん企業が出てくると思います。せっかく高専や工業高校があるので、うまくリンクすれば、もっと活力のあるまちになると思います。

**【会長】** 極めて多岐にわたるご指摘だったと思います。他の委員からも指摘があったように、まちづくりの循環イメージの中にも、産業の活性化、雇用の創出、地域内経済の循環というキーワードが出ている以上、産業界の役割を顕在化させておきたい方がいいと思います。工業に限らず第1次産業も含めて、役割や今後のミッションみたいなものが明確になっていくような頭出しをしておくことも必要だと思います。

もう1点は、具体的な手法の話として、これから居住誘導、都市機能誘導について検討していきますが、既成市街地の中に新しく住むときのコミュニティや自治会の難しさというのはあると思います。どのように既成市街地の中に新住民を誘導していくのか、スムーズなコミュニティ形成、ストックの流動化ということも誘導施策の中に少しずつ入れておく必要があると思いました。これは、今後十分に検討さ

れるべき手法の一部ではないかと思しますので、そういうことも観点として上げながら検討していただきたいと思います。

【委員】 広域調整として懸念材料は、隣接する市町の大きなところ2つは広域合併をしなかったまちで、市街地がコンパクトであり、この立地適正化計画に対する意識が、周南市や山口市、宇部市、下関市まではないだろうと想像します。委員の中に入れる必要はないですけど、オブザーバーという形で隣接市に参加してもらう方法もあると思います。

【会長】 1つの案ということでご検討ください。

【委員】 人間は潤いや癒しがあったりしながら生活するという原点からすると、それに関わるようなきめ細かい現況の整理の項目がないように思います。循環イメージに「伝統や文化の共有」というのが書いてありますが、このまちは徳山藩の城下町ですが、その雰囲気はほとんど消えうせています。やっぱりまちづくりにはそういう心配りがしてあるというのも、住民に向けての良い発信ではないかと思しますので、何かそこがないのが寂しいと思っています。

それから、たまたまコミュニティのお世話をしていますが、地域づくりにとってコミュニティは別となるのが極めて芳しくないと思っています。そのネックは既存の団体のエネルギー不足です。行政と地域の人がしっかりコネクションをつくって、適切な対策をとっていくということでない、まちはつくったけども人はみんなバラバラで生きていきますというようなことでは、うまくいかないと思います。入居される人に初めから自治会には入らなくていいでと言って入居を勧めている業者もいます。こういう都市づくりをやるときに、コミュニティというのは極めて重要な一つの生活単位だと思いますから、そこにも配慮が必要だと思います。

【事務局】 この立地適正化計画は、都市機能という視点ではございますけど、やはり生活しやすい、活動しやすいという環境が大切だと思いますので、コミュニティの視点も含めて取り組んでいきたいと考えています。この基本方針の中でも、コミュニティという言葉を入れておりますので、もう一度イメージ図等を検証したいと思っております。

【委員】 この基本理念のところに「多様な地域・人・モノ・コトが連携した」というのが書かれていますが、多様な地域や人やモノやコトというのが具体的に何を指しているかがわかるような形で議論が進められるようにお願いしたいと思います。それら

が相互に連携するイメージが具体的に出てくる資料にしていただけると、議論がしやすく、わかりやすいと思います。機能を集約していくのか、今のレベルで維持していくのかという議論もまだ出てきていない段階なので、そういう減り張りがどのようなイメージなのかある程度明確であると、ここまで資料を積み上げてきたというのがわかりやすくなると思います。そのあたりの定義づけ、イメージづくりを議論の前にしていただけるとありがたいと思います。

【会長】 少しそのあたりのところをイメージしながら基本方針のところをご検討いただければと思います。

それでは、時間がかかり迫ってきましたが、議事の（２）に移りたいと思います。今後のスケジュールについて、事務局、説明をお願いします。

【事務局】 （資料４に沿って説明）

【会長】 策定スケジュールについて、何か質問がございますか。

【特になし】

それでは、２８年度は、スケジュール（案）のとおり作業を進めていただきたいと思います。

それでは、最後にその他でございますけれども、何かございますでしょうか。

【事務局】 本日は長時間ありがとうございました。ただいまスケジュール（案）をご説明しましたけれども、年３回程度の協議会を予定しております。このたび２月下旬から３月上旬にかけて委員の皆様と意見交換等をさせていただきました。またそういう機会を随時設けさせていただきます、アンケート調査やヒアリング、説明会の節目には皆様からご意見をいただいて、それを業務に反映させていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いします。

【会長】 それでは、本日予定しております議事については、以上で終わりたいと思います。それでは、進行を事務局に返します。

【事務局】 鶴会長、委員の皆様、長時間にわたり、ありがとうございました。以上をもちまして、平成２７年度第３回周南市都市再生推進協議会を閉会いたします。  
お疲れ様でした。

午前１１時５８分 閉会